

報告

地域医療に関わる 地域別意見交換会 (2)

倶知安町・滝川市

常任理事・医療政策部長 直江 寿一郎

本年度道内6カ所で開催する「地域医療に関わる地域別意見交換会」の3・4回目を倶知安町、滝川市で開催した。

当会からは、長瀬会長をはじめ医療政策部所管の役員が出向き、医師確保対策の実施状況や、「緊急臨時的医師派遣事業」、30区域別自治体病院の見直し方針と郡市医師会の管轄、保健医療福祉圏域連携推進会議などについて説明。また、本年4月に、郡市医師会を対象に当会が実施した「地域医療に関する調査」の結果を報告した。

後志ブロックにおいては、救急搬送に人手と時間を取られ、診療に支障をきたす状況や、過疎地域における診療所の収入減、空知ブロックにおいては見直しを迫られている自治体病院と地域住民の関わりなどが報告され、意見交換した。

【倶知安町】

10月9日（木）午後6時30分からホテル第一会館で開催。出席者は27名であった。長瀬会長が、「医師不足・偏在は地域医療にとり切実な問題、道医としてどういう対応ができるか、ご意見を聞かせていただきたい」と挨拶したのにつき、高階羊蹄医師会長が、「ブロック内でも医師会ごとに抱えている問題は異なる。この機会に問題点をはっきりさせたい」と述べられた。

藤原常任理事や小職が地域医療について説明の後、高階会長が座長を務め、出席者に各地の状況の

報告を求め、意見交換した。医療政策等検討委員会委員である高村小樽市医師会理事も出席された。

出席者からは、「地方に医師を派遣すれば、教室のスタッフを増員できるようなメリットになる施策が欲しい」「夜間救急体制維持には年間1千万円の人件費が必要」「救急車に医師が同乗すると往復5時間拘束され、非常に負担。救急救命士に任せられないか」「夜間急病センターが今年も大幅な赤字の見込み」「過疎地で、今年になって診療報酬が月に5%落ちている」「救急、入院（19床）を止めると赤字が1/3に減るが、地域のニーズを考えるとできない」「高齢化を目前にして、地域で認知症を支える手段が必要」などの意見が出された。

長瀬会長は、周産期医療に関しては後志地域の町長さんから陳情を受けている。小児科、精神科、救急医療についても、真摯に取り組んで行くと述べた。

【滝川市】

10月23日（木）午後6時からホテルスエヒロで開催。出席者は32名であった。長瀬会長が挨拶の後、鈴木滝川市医師会長は、「空知各地から診療後お疲れのところご出席いただいた。この会が有意義な会となるよう祈念する」と述べられた。

宮本副会長や小職による説明の後、男澤滝川市医師会理事（医療政策等検討委員会委員）が座長を務め、出席者に各地の状況の報告を求めた。

出席した8郡市医師会の役員からは、「救急医療は周辺の医療機関に依存している。岩見沢まで救急車で40分かけて搬送している」「開業医が高齢化している」「郡市医師会の枠組みが実態と合わない」「指導医の研修など基準をクリアするため、医師は20年前より2倍、3倍の負担増。1/2、1/3の患者しか診られなくなり、収入減」「自治体病院の個々の事情を考えず、何の目的で30区域に集約化を求めるのか、30の根拠は何か」「自治体病院は地域医療を守る最後の砦。広域化・集約化には、市民を含めて検討し、方向を決めることが前提」など意見が出された。

宮本副会長は、30区域提案について「国保のレセプト調査に基づき外来患者の動向から、北海道がひとつのモデルとして示したもの。地域でよく話し合っていて決めていただきたい」と説明した。

最後に長瀬会長が「われわれも協力を惜しまない。地域医療の確保をよろしく願いたい」と述べた。



倶知安町の模様



滝川市の模様